

審議まとめ

(1) あらい七夕プロジェクト

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.10 《採用》
- ▷ 助成金額 370,000 円
- ▷ 審議概要 来年度3年目を迎え、七夕飾りの展示や夏まつりが地域に定着しはじめ、関係者との連携の輪が広がっているように感じた。また、地域課題へのアプローチを見据え、多方面に声かけをしながら、事業を大きく展開させようと奮闘している姿が伝わった。
一方で、これまでの実践を通じて、ニーズや課題が整理されておらず、取り組み内容が散漫になっている印象を受けた。
今後に向けて改めて課題を整理し、イベントまでのプロセスやイベント後における地域コミュニティの「あってほしい姿」を具体的に意識しながら取り組んでいただきたい

(2) AWESOME PORT プロジェクト

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.46 《採用》
- ▷ 助成金額 350,000 円
- ▷ 審議概要 不登校児童・生徒への支援として、取り組みの趣旨や若林区での新鮮さ、熱意を強く感じるものとして高く評価された。また、仙台市は不登校児が多いという背景に加えて、地域の中での多様な居場所が求められている現代において、社会的ニーズにも合致している。
一方で、スタッフの熱量が強すぎるが故に、その分頑張りすぎてしまうのではないかという心配もある。自分たちだけで頑張りょうとするのではなく、行政をはじめ、然るべき関連団体など横の連携も意識しながら、無理のないように取り組んでいただきたい。

(3) 荒町 100 年ミライチズ制作 (荒町のミライチズを描こうプロジェクト)

- ▷ 採点結果 総合評価点：1.46 《不採用》
- ▷ 審議概要 荒町地域の 100 年後の将来を見据え、荒町商店街を中心とする地域の魅力を大学生や専門学校生の力を借りて発掘し、次代へと残していく試みとして、企画の趣旨については賛同できた。
しかし、荒町周辺を紹介するマップが既にいくつも存在している中で、新規性や成果物の具体的なイメージが示されなかったこと。また、事業に関わる商店街振興組合が個別店舗のニーズを汲み取っているか、東北学院大学が参画する意義など、事業に関わる団体の役割や位置付けが不明瞭であった。そして、事業計画の中に、周辺住民の具体的な姿がほとんど見えず、東北学院大学の学生を商店街へ呼び込むためだけの企画になってしまっていることが大きな課題である。結果、残念ながら不採用となったが、企画を練り上げ、再度チャレンジすることを望む。

(4) 「高校生・大学生が自ら学び考える荒浜・深沼エリアの魅力発信」「デジタルコンテンツ制作と高大連携 (東北福祉大学ー常盤木学園高校) によるデジタル人材の育成」

- ▷ 採点結果 総合評価点：1.73 《不採用》
- ▷ 審議概要 これまでの復興道半ばの荒浜・深沼エリアにおける活動、そして、新たに若者の DX への意識啓発も意識しながらの情報発信を目指そうとする企画意図には共感を得た。
一方で、デジタルコンテンツの内容や費用対効果、誰に対して発信していくのかなど、説明に不明瞭な点が多くみられた。また、学生が地域企業や団体と連携して取り組みを行うことは非常に有意義であるが、人材育成のプロセス、学生を学外の事業に参加させることの実現性、成果物の質の面など疑問が多く残った。
結果、残念ながら不採用となったが、企画を練り上げ、再度チャレンジすることを望む。

(5) 仙臺屋台を活用した「沿岸部の魅力を拡張・発信する」プロジェクト

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.35 《採用》
- ▷ 助成金額 500,000 円
- ▷ 審議概要 来年度3年目を迎えるが、資料やプレゼンテーションを通し、様々な方々を取り込んだり、回数やコンテンツを増やしたりと着実に成果を積み上げてきたことが伝わった。特に、幅広い世代の方々の興味・関心を高めようと努められていることや、地域の方が発した言葉やその言葉に込められた思いが直接アーカイブされていることなどは評価できる。
今後は自然を活用したアクティビティや食の体験など沿岸部の魅力をより多くの方々に発信していただくとともに、助成が終了した後の取組も視野に入れながら、このプロジェクトが長く継続・発展していくことを期待したい。